団体名	NPO法人 地域文化に関	目する情報とプロジェクト	法動々イトル	学習・生活に困難を抱えた子どもに自己肯定感をもたらす読み解き・対話 の学習支援事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン(社会的役割と活動基盤)					■活動風景
●望ましい社会状況(ビ ジョン)	味関心に沿って多様に学べ、人生を選択しながら歩め、互いを認め合い尊重できる社会のこくわくと学べ、多様な背景の人同士が対話をしながら相互に尊重し助け合える、豊かな地域 当団体の社会的役割は、全ての子どもが自己肯定感を持ち等しく社会に参加できる教育機	会を提供することである。とりわけ貧困弱者など教育機会に恵まれない子どもに焦点を当てる	、主体的にわ	「ことばの実	
●団体の社会的役割 (ミッション)	1) 自己肯定感を持ち気持ちや考えを表現できるようになるための、読解・対話を通じた学で2) 家庭における学習・デジタル環境の差によらず誰もが学べる場のモデル作りと実践を行う3) 異なる価値観や背景を持つ者同士が互いの違いを聞き合い尊重しながら社会関係を構築	う。できる価値観と対話力を養う。		験教室」 一人一人が物 語づくりに取 り組んでいる	
	人的資源:本活動に取り組む常勤講師及び安定的運営と広報・ファンドレイジングが担える物的資源:本事業が必要な地域で事業実施のスペース及び活動に必要な機材が十分であるこ活動資金:寄付を含む自主財源の十分な確保に加え教育機関、行政、企業からの援助や共同ナレッジ:他地域の児童が抱える問題に係る包括的な情報を得ることで現場ニーズに柔軟に	と。 実施により活動拡充を行える財政力を保持していること。		様子	
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			NA.
大阪市西成地域の児童館と公民館で、読み解きと対話の表現教育に造詣の深い外部講師を迎え、学科学習支援とは異なる教育支援を実施した。物語づくりや作文、対話を通して、様々な学習環境にある子どもたちが楽しみながら個性を伸ばし、自己肯定感を育む機会を提供した。 ●子どもの学びに関する講座・相談(保護者) 子どもの個性を伸ばし自己肯定感を育む多様な学びについての講座・相談会を実施し、関心を高める機会を提供した。また、大阪市の「習い事・塾代助成」申請に関するサポート相談も行った。 ●教育サポーター育成・スタッフ研修活動(活動基盤強化) 多様性・包摂性に基づく表現教育や創造性教育に関する講座を通じて教育サポーターを育成した。さらに、地域の行政機関や子育て支援団体へのヒアリングを行い、社会状況や地域課題への理解を深めた。		 ②目標アウトカム「表現・対話・自己肯定感の変化」:参加者の50%以上の向上が見られた。教室活動の変化、児童館職員への聞き取り、記録映像による観察、アンケート) ●子どもの学びに関する講座・相談 ①開催 2回実施 ②目標アウトカム「子どもの個性を伸ばす学びへの関心」「大阪市習い事・塾代助成の申請が加者の50%以上が2段階以上UP。(半数超が4段階以上) 	5法理解」:参	発表会 参加児童が作った絵本動画の発表。保護者や地域の 大人とみんなで。	
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題		■活動成果のアピールポイント(自由記入)	
 教育サポーター研修を通じて、国内外の多様性・包摂性に基づく創造性教育に関する情報を収集し、実施メンバーやボランティアが利活用できるようになった。 参加児童の学びや意識の変化を、映像記録の振り返りに加え、日常的に関わる児童館スタッフへのヒアリングでも把握し、活動内容の向上につなげた。 活動実施拠点の児童館や地域公民館、小学校PTAからの協力・連携関係を構築できた。 		「読み解き・対話の表現学習支援」では、年齢の幅や外国にルーツがあるなど、多様な児童の背景理個々のニーズに応じた対応が必要であり、言葉に限らず様々な手段で自己表現を促すプログラム設定られる。加えて、児童が安心して活動できるためには連続した人間関係の構築が重要であるため、実の増加が望ましい。		この1年間の 活動を通じて	のベ117人に創造性教育の機会を提供すること、および、運営する活動基盤を強化すること
		「保護者向け講座・相談」は、多忙な保護者が参加しやすい送迎時や発表時の機会に配布できる資料の整備 と、随時相談に対応できる体制強化が望ましい。「教育サポーター育成講座」では、インクルーシブ教育の	■受益者の具体的な変化(自由記入)		
		視点から教育支援への理解を深める内容としたが、実際の児童との関わりにどう生かすかを体験的に学ぶ機 会が現段階ではまだ少ない。このため、講座で学んだことを参照しながら現場を振り返る機会を重ねる。		・参加児童が粘り強く主体的に物語づくりに取り組み、対話を楽しめるようになってきた。 ・参加児童から「来年度も活動が開催されれば、ぜひ参加したい」との意見が多数寄せられた。	